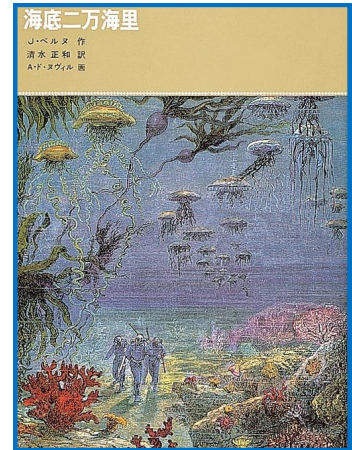


おすすめの図書

福音館書店 / 初版：1973年10月20日
単行本 / 752p / 2,750円（税込）
ジュール・ベルヌ 作 / 清水 正和 訳
アルフォンス・ド・ヌヴィル 画

『海底二万海里』（福音館古典童話シリーズ）



1866年、世界各地で船舶と「何かばかりでかく、驚くべき速力をもつ怪物」との接触事故が多発していた。世界中が大騒ぎとなり、特にヨーロッパやアメリカの貿易業者、船主、船長、海軍士官、各国政府は重大事件として捉えていた。海洋生物学者アロナックス教授は、怪物は巨大な海の一角獣（イッカク）のような生物と考えていた。そんな中、アメリカ合衆国の海軍省秘書官より、アロナックス教授のもとに、軍艦「エイブラハム・リンカーン号」による怪物調査への招待状が届く。

この本は、SF小説の父と呼ばれるジュール・ヴェルヌが書いた小説です。古典童話としてあげられていますが、大人が読んでも読みごたえのある作品だと思います。私がこの本と出会ったきっかけは、私が子供のころにヒットしたSF映画である「Back to the Future」シリーズにおいて、タイムマシンを開発した科学者エメット・ブラウン博士が子供のころに夢中になって読んだ本として登場したことでした。東京ディズニーシーにこの小説を原作にした映画をモチーフにしたアトラクションがあるようですので、もしかしたら、名前を知っているという方もいるかと思います。

SF小説は、科学技術をベースとし、読む者をワクワク、ハラハラ、ドキドキさせるものですが、それだけでなく、科学技術により、みんなの生活、文明、あらゆるものがどのように変化するのか、さらに倫理とは何かまで考えさせてくれるものです。技術者や研究者は、私も含めつついづい既存の技術の延長線上にしか未来を想像せず、また技術が与える影響にまで考えが至らないことが多いですが、ジュニア会員の皆さんにはSFに数多く触れることで、想像力を高め、物事を俯瞰や多面的に捉えることに慣れてもらえたら嬉しいです。

そろそろ夏休みが近づいてきましたね。新しいことに挑戦したり、普段できないことに取り組んだり、何か計画を立てている方も多いかと思います。今回紹介した本以外にも面白いSF小説はたくさんあります。もしよかったら夏休みにSF小説を読んでみませんか？

（鳥取大学 笹岡直人）